

耐震診断結果一覧表の見方

評価の結果(①)と附表の安全性の評価(②)を比べることでⅠ～Ⅲのうち、どの安全性の評価区分に該当するか確認できます。(下記例の場合、評価区分は「Ⅰ」となります。)

【耐震診断結果の例】

No	建築物の名称	建築物の位置 (地名地番)	建築物の 主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の 地震に対する 安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
	△△旅館	大阪市〇〇区〇-5-5他	旅館	(7-3) 一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める 「第3次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{s0} = 0.27$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.26$			

【附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価(抜粋)】

耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
	地震の震動及び衝撃に対して 倒壊し、又は 崩壊する危険 性が高い。	地震の震動及び衝撃に対して 倒壊し、又は 崩壊する危険 性がある。	地震の震動及び衝撃に対して 倒壊し、又は 崩壊する危険 性が低い。
(7-3) 一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める 「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{s0} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{s0}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$

【補足事項】

- ・「建築物の主たる用途」欄は、建築物の耐震改修の促進に関する法律に規定されている用途のうち、主たるものを記載しています。
- ・「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果」欄は、各方向・各階の結果のうち、最小値を記載しています。
- ・「耐震改修等の予定」欄は、耐震改修や建替え工事等の方針が決まっても、具体的な時期が未定の場合は記載していません。
- ・主たる用語の概要は次のとおりです。

用語	概要
I_s	構造耐震指標。この数値が大きいかほど耐震性が高い。
I_{s0}	構造耐震判定指標(目標値)。
$C_{TU}(C_T)$	構造物の終局限界における累積強度指標(累積強度指標)。
S_D	形状指標。建築物の平面、立面形状等による補正係数。
q	保有水平耐力指標。この数値が大きいかほど耐震性が高い。
Z	地域指標。地震活動度等による補正係数。
G	地盤指標。地盤、地形等による補正係数。
U	用途指標。建築物の用途等による補正係数。
R_t	振動特性係数。